

日本経済新聞

電子版夕刊

東日本地震、世界最大級

M9.0に修正

11日に発生した東日本巨大地震で、気象庁は13日午後、地震の規模を示すマグニチュード(M)を8.8から9.0に再修正したと発表した。同庁が海外での津波の観測データをもとに再計算した。長さ約500kmの断層が5分以上かけ、3段階で破壊したとみられる。Mの大きさは日本最大で、世界でも過去4番目の大きさとなり、未曾有の大災害を裏付ける形となった。



行方不明者を探す消防隊員(13日午後、仙台市若林区)＝写真 今井拓也

同庁はオーストラリアやフィンランドなど海外の約40地点で観測された津波の波形を詳細に解析。当初は最初の波の状態をもとにM8.8と見積もったが、その後の解析で後続波に通常の津波では見られない特殊な波形があることを発見した。第2、第3の巨大な破壊が連続して起こっていたことが分かり、地震の規模を全体としてみるとM9.0だったと判明した。

気象庁によると、今回の震源域は長さ約500km、幅約200km。断層は宮城県沖の震源から割れ始め、100秒強かけて長さ約400kmが破壊した。約50秒の間隔を空け、最初の破壊域のやや南側から計100kmに及ぶ2つの断層がそれぞれ約100秒かけて次々と割れ進んだとみられる。

目 続く